- 図書一覧 書籍紹介 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

博士と狂人－世界最高の辞書OEDの誕生秘話

著者名	サイモン・ウィンチェスター	発行年	1998年
出版社名	早川書房	ページ数	325ページ
値段	740円	ISDN	978-4150503062
コメント	「第二独房棟の学者」。この言葉に反応したあなたは、ほんとうに世にも稀なる人物に面会を許されることになる。 警告：彼にナイフを渡してはいけない。 原題：THE PROFESSOR AND THE MADMAN　この「and」は奥が深い。ひとりの人間のなかに博士と狂人のふたりが棲んでいるのだ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆	膨大な閲読者から膨大な古典の用例を集め、そこからリストを整理し、１語１語の定義と意味と使用された年代をまとめ上げていく。ワープロやコンピュータがない時代に、こんな呆れるほど骨の折れる作業の積み重ねが７０年も続いてやっと完成した辞書OED。おそらく主人公の他にも何人もの狂人・変人がいて、彼らの超人的な集中力と持久力が、この辞書を生み出したのではないか、という気がする。			
	全部	325P (200分)		2009/02/20 20:27:54
so ☆☆☆	最初のストーリーのあらましはすごいわくわくするものだったけどＯＥＤの中身の例とかがしつこいと思った。もっとがっつりストーリーに入っていきたかった。			
	1-67	67P (60分)		2009/02/20 00:24:18
besevener ☆☆☆	天才とサヴァン症候群の話を思い出した。			
	1－158	158P (90分)		2009/02/09 08:17:03
forex ☆☆☆	天才とバカは紙一重という言葉があるがこの場合は天才と馬鹿は表裏一体の関係にあると言えるのではないだろうか。			
	1-18	18P (30分)	特になし	2009/01/02 21:53:17
自由教育 ☆☆☆☆	何気なく存在している辞書。何も意識せずに使っているが、よくよく考えれば辞書ってすごい。辞書を作ることの大変さがよく伝わってきた。また、独房の中の学者の人生も実に興味深かった。			
	9-14ページ、195-296ページ	108P (60分)		2008/12/04 14:09:01

弟子
☆☆☆☆☆

警告：彼にナイフを渡してはいけない。　ダメ・ゼッタイ

私の祖父は英語教師だったので孫の英語教育にはひときわ熱心な人でした。当時クラスのみんなが当たり前のように電子辞書を持っている中で私は当然のように本の辞書を持たされていました。その理由は明快で「電子辞書は例文が非常に見にくい」とのことでした。まあそれ以前に固い人であったのですが。そんな私にとって英語とは、単語を引きそこにある例文を覚える科目でした。
この本を読んで久しぶりにいつも使っていた紙の辞書を探し出してきました。いまさらながらにその辞書に書いてあった例文の多さ、豊富さ、そしてよくわからなさを実感しました。たまにあるんですよね、わけわかんない例文。それを探してみるのも面白いのでいいのですが。そしてこういった例文、意味などはすべて人間によって書かれていることを、その例文のわけわからなさから読み取ってみたりしました。
もちろん私が読んだ例文も意味もこの辞書の一部であり、私はおそらくこの辞書をすべて読むことはないでしょう。ついに一文字も読まれることがないようなページももしかしたらあるのかもしれません。でも私が読まないからといってそのページがなければそれは辞書たりえないし、辞書であるからには読まれないページや例文も多数に含まれてしまうのかもしれません。それはなんとなく「歴史」というものに似ているのかもしれません。

面白かったのは「lexicographer（辞書編纂者）」の項目（P144）。自虐としか言いようのない皮肉さがなんとも言えません。立ち読みポイントは、本当に勇気のある人だけ、どうぞ。

all	325P (100分)	10章　(トラウマ注意!!)	2008/11/25 12:44:35

ＴＯＰへ

私はフェルメール－20世紀最大の贋作事件

著者名	フランク・ウイン	発行年	2007年
出版社名	ランダムハウス講談社	ページ数	281ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4270002346
コメント	17世紀の無名画家の絵を安く買ってくる→石鹸と水と軽石でていねいに元絵の絵の具を融かして除去→そのキャンバスの上に17世紀当時と同じ絵の具で新たに描く→特製の窯に入れて焼き、表面に亀裂を発生させる。 ほぼ、こんな工程で、ニセモノの名画ができあがってゆく。それに託した制作者の暗い情念。そして、はからずもナチスがからむことで、「これはニセモノなのだ」と制作者自ら証明してみせなければならなくなった稀有な巡り合わせ。 偉ぶった美術評論家を巧みに罠に誘い込んでゆくプロセスが痛快で、読み進むうちに贋作者メーヘレンの野望にどんどん肩入れしてしまう。ちょうど怪盗ルパンを応援したくなるように。 原題：I was Vermeer		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
たくや ☆☆☆☆	メーレヘンかっこいい！贋作というものは金儲けのもっとせこせこした存在かと思っていた。実際メーレヘンもお金の泥沼に落ちてはいるが、芸術家としての最後の裁判風景などは、ありきたりかもしれないけれど例えばルパンみたいな愛すべき犯罪者を感じさせられた。			
	1－48　200-275	124P (120分)	裁判	2009/02/20 11:47:04
uk ☆☆☆☆	日常で絵画などの美術作品に触れようとしていない自分にとって この本は違った刺激を与えてくれた。			
	200-288	89P (60分)	276-288	2009/02/19 21:58:13
鍋工房 ☆☆☆☆	しかし、価値ってなんなんでしょう。 美術品としての本質は何も変わっていないのに、信頼の上に成り立つ交換可能な財としての価値が専門家の判断一つで変動したり、「価値」自体が自己増殖するから不気味に見えるんでしょうか。 その悪習に一撃を加えることは、さぞかし気持ちのいいことだったでしょう。			
	全部	281P (240分)		2009/02/19 17:58:17
ベル ☆☆☆	絵をもっとみたくなった。 最後の補遺にある名画の所在をみると、あちこち行ってみたくなります。			
	1-48,289-310	69P (30分)		2009/02/18 22:37:33
Karagounis fan ☆☆☆☆	まるで映画のようなストーリー。どんどん読むことができました。 彼の自白についての専門家の意見が分かれてしまうところが滑稽。			
	58-288	231P (150分)	272-273	2009/02/18 10:06:42
kazuki ☆☆☆☆	人生はなるようにしかならない　　だから人は復讐を夢見るのだ ポール・ゴーギャン 個人的にこの言葉が気になるが、内容と関係あるのかな？			
	1-99	100P (70分)		2009/02/16 14:47:26
ヒトラー	主人公の嘘のうまさにあっぱれ、いやもはやそれにとりつかれてしまっていて病気か。。			

☆☆☆	1-288	288P (150分)		2009/02/15 19:51:07

前田 ☆☆☆☆☆	美術に関して考えさせられる一冊 この事件はたまたまよにでるかたちになったがこんなようなものが実はいっぱいあるのかもしれないと思うと不思議な感じになる			
	1-281	281P (100分)		2009/02/01 22:17:14

funza ☆☆☆☆☆	評論家の心理を巧みに利用する贋作者 かっこいい！			
	1－281	281P (400分)		2009/01/27 12:28:20

上場亮 ☆☆☆☆	贋作に関して、最近映画でも話題になっているが、だいたい話が似通っていてあきました。			
	8-120	112P (120分)		2009/01/26 21:39:14

ap ☆☆☆☆☆	ファン・メーヘレンについては、フェルメールが流行ってるときテレビで取り上げてるを見たことがありましたが、その時より彼の人生について、特に贋作者になるまでが、深く知れて面白かったです。			
	8-288	280P (480分)		2009/01/20 01:00:02

弟子 ☆☆☆☆☆	本書の114ページより 『芸術は、評価されなければ。生き残らない。才能のない芸術家には短い告解の時間しか与えられない。愛されない絵画は無関心と無視に遭い、消え去っていく。』 本当は滔々とだらだらと感想を語っていきたかったが、この文章を見つけてしまったので私は感想を書くことを断念することにした。この文章が、この本の感想以上を物語っている気がしたからである。			
	8-200	193P (100分)	92-93	2008/12/02 12:36:42

evolv ☆☆☆☆☆	彼は悪なのだろうか。 私はこの一冊の本だけで彼のファンになってしまった。 　ブランドとはもっとも忌むべきものであるというのが私の考えである。すばらしきものには名があるが、名があるものがすばらしいわけではない。 　多くの専門家が、化学的手法という、まったくもって芸術から離れるナンセンスな方法によってでしか、彼の作品の偽装に気づくことができなかった。それは、彼が、天才に近づいた、天才に追いついたことに他ならないのではないだろうか。 　ピカソを上回る技術を持ちながら、狂信的とも思える芸術へのポリシーが彼の生き方にあり、また、彼にそれを貫き通せる才能があったことがなによりもすばらしい。 　専門家によって正確に評価される彼の作品も、だまし通せたときの彼の心情もともに狂った芸術作品だ。 　私もフェルメールのファンであるが、いまさら彼を認めないフェルメールファンは、本当にフェルメールの絵が好きなのだろうか？それともフェルメールという画家が好きな自分が好きなのだろうか？ この原題がまた美しい。シンプルでいてこの本をすべて語っているようなタイトル。私もこのようなうまいタイトルを作れるようになりたい。			
	101-315	215P (180分)	すばらしいピカソ作品	2008/11/12 01:41:04

宅急便 ☆☆	贋作の手立てなどは興味深いのだが、全体を通して美術品のやりとりに関する常識と当時のオランダ国内の状況、及び他国（ドイツ）との関係に関する知識がないと納得できがたい部分が多いように思う。 評価が低い理由はこのことに加え、翻訳のせいか話の流れや言い回しにしばしば違和感を覚えること、ハン・ファン・メーヘレンという人物にまったく好感をもてないこと。			
	8-288ページ	281P (200分)	118-137ページ	2008/10/15 00:11:29

ＴＯＰへ

ヒトラー　最後の12日間

著者名	ヨアヒム・フェスト	発行年	2005年
出版社名	岩波書店	ページ数	242ページ
値段	1,900円	ISDN	978-4000019347
コメント	史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とある巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー＝大悪人と単純に塗り潰して満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆	映画もぜひ見てみたいと思いました			
	全部	242P (200分)		2009/02/20 20:47:20
弟子 ☆☆☆☆	いきなりヒトラーがケーキとか言い出したのでびっくりした。 けれども、そのことがかえって、アドルフ・ヒトラーという人物は年表の中の偉大なる住人ではなくて、ただの人間だったんだなって実感に繋がった。			
	2-50	49P (25分)		2009/02/20 06:05:24
chicken-run ☆☆☆☆☆	時間が逼迫していたので最初のさわりの部分しか読めませんでしたが、同名の映画は大好きです。 かつてはヨーロッパのほとんどを制圧し、覇権を極めていた帝国が滅んでいくなか、その中枢ではどのような人間ドラマが繰り広げられていたのか。 周辺の歴史も押さえておくと非常に興味深いと思います。			
	1-30	30P (20分)		2009/02/19 15:26:23
ヒトラー ☆☆☆☆	独裁者ヒトラーというイメージが少し和らいだ気がします。 ヒトラーの生きざましかと受け止めました。			
	1-105	105P (120分)	なし	2009/02/15 19:45:55
ri-si- ☆☆☆	途中であきました。最後の部分だけだと歴史的な背景がわからないので前の部分を知ってからがいいと思います。			
	1-34	34P (20分)		2009/02/09 10:09:08
世界のニシテツ ☆☆☆☆	映画も合わせて見てみようと思う。			
	1－146	146P (100分)		2009/01/31 23:41:05
!? ☆☆☆	時間がなくて微妙なとこまでしか読めなかったけどなかなか面白かった。			
	1-100	100P (60分)		2009/01/28 11:23:09
funza ☆☆☆	映画見るとしますか・・・			
	142－242	100P (180分)	ヒトラーが自殺するところ	2009/01/27 12:43:50
david wright	ヒトラーリスペクト的なアレですね			

☆☆☆☆	1-242	242P (120分)		2009/01/17 10:08:20

＆ＤＯ ☆☆☆☆	キャラクター的でないヒトラーの人間味を感じた			
	2-34、52-148、166-205	171P (100分)	166-205	2009/01/13 12:34:10

ザルカヴァ ☆☆	ドイツ史の中のヒトラーという章に惹かれて読んでみたが、結局ドイツ史の中のヒトラーがどんな感じなのかわからなかった。			
	35－50	16P (10分)		2008/12/19 11:58:00

forex ☆☆☆☆	敗北が迫るヒトラーの焦燥感が見事に描き出された作品だった。読んでるうちにこちらまでヒトラーの悲哀が伝わってきた。物語調で書かれており、読みやすいかもしれない。ヒトラーが地下壕の中の生活でケーキを貪っていたということをこの本で初めて知り、少し笑った。			
	1-122	122P (120分)	1-34	2008/12/04 17:44:14

ＴＯＰへ

シャドウ・ダイバー　上・下

著者名	ロバート・カーソン	発行年	2008年
出版社名	早川書房	ページ数	663ページ
値段	1,470円	ISDN	978-4-15-050340-6
コメント	潜る。 不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひたすら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。 いやなにも、そこまでしなくても、とはらはらの連続の果てに。 ラストメッセージは、「来てくれてありがとう」		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
evolv ☆☆☆	二冊になって大変持ちやすくなりました。それにしてもダイビングとはいかに強靱な精神を持っているのだろうか。締め付けられるからだ、冷える血液、薄れゆく意識そのすべてが人の限界を超えていく死と隣り合わせの行動。 命と冒険。いったい何人の男たちがこの二択で冒険を選んだんだろうか。私にはあまりにも大きなロマンだった。			
	すべて	663P (180分)	下巻後半	2009/02/20 01:05:29
heat-active ☆☆☆	深海に潜るとは何たるかについて書かれた本である。沈没船を冒険しようという思いからダイビングに挑む男たちに思わず感嘆した。			
	上25-66ページ	42P (6分)	64ページ	2009/02/20 00:24:39
uk ☆☆☆☆	人間の行動力の源の1つは好奇心である。 結末を知りたいと思ってしまったがゆえにたくさん読んでしまった。			
	下17-286	270P (300分)	第9章	2009/02/19 22:07:08
&DO ☆☆☆☆☆	Uボートにかける男のロマンとそれと隣り合わせの死。 映画のような感じでサクサク読めた。			
	1ー230	230P (250分)	59‐72、100-150	2009/02/03 17:33:30
TAK ☆☆	海猿みたいなのを考えてたけど、OCEANは聞こえてきませんでした。 いや〜、途中で投げちゃうでしょ。			
	1-153	152P (120分)		2009/02/01 15:48:44
BLOWIN' ☆☆☆	ダイビングというものはこうも奥深いものだったのか！と思わせる二冊。上巻だけ読めば、彼らの熱くそして男臭い雰囲気はビシビシと伝わってきます。彼らは人間の限界と戦う猛者です。			
	上59-136,下111-286	254P (180分)	上59-136	2009/01/24 12:57:17
継承者 ☆☆☆☆	謎のUボート。歴史を覆す発見なんじゃないか？という男のロマンの話。 深海に挑みつつ困難を乗り越える物語。			
	1-102	102P (60分)		2009/01/24 00:00:21

弟子 ☆☆☆☆☆	絶望と、恐怖と、孤独と、危険と、そんなものがどうでもよくなるくらいの、途方もない量の魅力の詰まったダイビング。 まるで死に魅入られたかのように、海の底に手を伸ばす男たち。その手がつかむのは、時に世紀の大発見であり、時に仲間の遺体であり、時に空になった自分のボンベであり、時に命綱であるアンカーであり。彼らはそれらを、つかむために、潜る。ただ、潜る。			
	上11-322	312P (100分)	4章	2009/01/20 12:30:43

・・・からお越しの ☆☆☆☆	危険とロマンはいつも隣り合わせですね。 こんな道も一週間ぐらい体験してみたい。。。死ななければ笑			
	1-136	136P (150分)	特になし	2009/01/13 00:05:24

forex ☆☆☆	はしがきからは男のロマンが感じられた。 深海に眠るUボートというのは徳川埋蔵金伝説を彷彿とさせ、とても心ひかれた。			
	1-26	26P (20分)	特になし	2009/01/02 21:59:53

!? ☆☆☆☆☆	全く知らない世界のことだったたのでドキドキした。			
	上25-136	111P (120分)		2008/12/08 15:26:00

非食用もやし ☆☆☆☆☆	主人公が潜水艦を発見して、その潜水艦の正体を自分たちで暴き誰よりも早く世間に公表しようとするお話です。 とても、面白いので非常にお勧めです。 全部読んでない人が↑のように言うのはなんですが、これは深い事情があります。 とても面白くハラハラしながら結果がどうなるのか楽しみにしてました。しかし、 これ上巻じゃん… これであきらめました。			
	上　1-220	220P (200分)		2008/10/22 19:53:32

ＴＯＰへ

顔のない男

著者名	熊谷　徹	発行年	2007年
出版社名	新潮社	ページ数	198ページ
値段	1,300円	ISDN	978-4-10-417104-0
コメント	今だから話そう、あの凄絶だったドイツ人同士のマジなスパイ合戦。 まるで映画みたい、なんて言っていられない胃の痛くなる神経戦が何年も何十年も続く。その場その場の心情が、当事者から引き出した証言によって跡づけられていて臨場感ありあり。全体としては重々しいけれど、律儀に誕生日を祝うドイツ人らしさが、スパイの身元発覚の端緒になってしまうなんて、小さな笑みも時には。 こんなことは、もう終わっているはず？　いや、南北コリアで、きっと。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
☆ ☆☆	濫読がテーマのこの授業ですが、物語はさすがに濫読しづらく厚さに圧倒され挫折してしまいました。 スパイということで大変興味深い内容だったのですが…			
	1-23	23P (20分)		2009/02/19 01:21:06
・・・からお越しの ☆☆☆	ちょっと難しそうなので折れてしまいました。。			
	1-40	40P (70分)		2009/02/19 00:28:44
前田 ☆☆☆	映画などで見ているスパイ像とはかなり違い華やかさというよりはかなりどろどろしているなと感じた それでもこうした工作が事実としてしかも歴史上かなり重要な出来事だったというのが伝わってきた			
	1-137	137P (60分)		2009/02/18 00:50:25
ヒトラー ☆☆☆☆	タイトルから興味をひかれた。スパイ系の話は好きなので面白かった。			
	1-142	150P (90分)		2009/02/16 09:37:27
besevener ☆☆☆	タイトルからほんわかした話かと思ったが、全然違った。			
	10－93	83P (45分)		2009/02/09 08:22:36
ザルカヴァ ☆☆☆	結構ありがちなスパイの話だった。東ドイツでは何も開発できないから西からコンピュータ技術をスパイしたとか、情報工作したとか。スパイにはなりたくないな。			
	79-142	64P (30分)		2008/12/19 11:53:00
snsk ☆☆☆	タイトルに惹かれてこの本を読んだ。 「顔のない男」というのは「無数の顔を持つスパイ」という意味だったのか。 重たい話だった			
	1-142 172-207	178P (80分)		2008/11/11 23:06:40
非食用もやし ☆☆☆	戦争時に敵国に偽情報を流して、敵国の士気を下げる作戦のお話。 作戦では敵国のマスコミが大活躍。資本主義なら当然そうなるだろうと予想できる作戦でした。			
	79-104	25P (20分)		2008/10/22 19:44:42

弟子 ☆☆☆	『顔のない男』なのに表紙が顔にみえましたとさ。 中身はこちこちのドイツ人。失敗したときのリスクを全部考えないと納得いかないようなこちこち、スパイとしての動作をひとつひとつ細かく決めてしまわないと気がすまないこちこち、うわあ堅苦しい。			
	10-39	30P (30分)	特になし	2008/10/21 16:36:22

ＴＯＰへ

眠れない一族　－食人の痕跡と殺人タンパクの謎

著者名	ダニエルT.マックス	発行年	2007年
出版社名	紀伊国屋書店	ページ数	322ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4314010344
コメント	致死性家族性不眠症。時限スイッチが入って体内の殺人タンパクが暴れ始めると眠れなくなって悲惨な死に至る。ロザリオの祈りにすがるしかなかったイタリアの名家の壮絶な宿命をひもときつつ、狂牛病へと説き及ぶ。 たくさんの人がこの病に関心を持ってくれないと、巨費を投じての新薬開発が進まない。ひそやかな弔いを捨てて、PR戦術に転じたイタリアの一族の行動が何ともせつない。病気は、今や見世物なのだ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
たくや ☆☆☆	文章としては、話の展開があちこち飛び、人名とか専門用語が多く、読みづらかった。 プリオン病というものの存在を知らなかった…というか病気の仕組みそのものをあまり知らない僕にとって内容は興味深かった。病気の伝染の仕方から推理を原始の食人習慣にまで発展するなんて奥深いなと思った。			
	3 - 35　252-338	118P (100分)	1章かな	2009/02/20 11:39:30
＆ＤＯ ☆☆	狂牛病のところを読んだが、タンパク質って深いなってのと人は人を食ってたのは驚きだ。　まぁそんなに面白い本じゃないかな。。。			
	214-308	95P (50分)	265-278	2009/02/03 16:32:28
・・・からお越しの ☆☆☆	内容が重かった。 かわいそすぎる。			
	1-37	37P (50分)	特になし	2009/01/27 13:09:09
上場亮 ☆☆☆	この本の着眼点はすごくおもしろいと思ったが、 いまいち盛り上がりに欠けるほんだった。			
	全部	322P (240分)		2009/01/26 21:25:14
ザルカヴァ ☆☆☆	序章のプリオンタンパクの話で満足する。たしかに、プリオンは最強のタンパク質のようだ。			
	13－35	23P (20分)		2009/01/21 12:47:10
heat-active ☆☆☆	いろいろなことが書いてありますが、病原菌でもなくウイルスでもないタンパク質がここまで脅威をふるったことがなまなましく書いてある。 自然はむやみやたらにいじらない方がよいのかもしれません。			
	13-93,214-251ページ	119P (70分)	214-251ページ	2009/01/14 16:06:19
弟子 ☆☆	なんだかとっても忙しい本。あっちへ行っては戻ってきて、こっちへ行っては戻ってきて、いろいろと網羅しているのは悪いことではないんだろうけど、どうにも一貫性が薄くて濫読にはむいていなかった感じ。			
	13-55 190-212 265-277	79P (40分)		2008/12/09 05:02:09

自由教育 ☆☆☆	不眠症の起源をたどるのは面白いが、病のこと以外の内容も多くて、少し退屈な部分もあった。		
	13-151ページ	139P (75分)	2008/11/06 16:15:03

ＴＯＰへ

戦争広告代理店

著者名	高木徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISDN	978-4062750961
コメント	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆	いわゆる“ 情報戦 ” その役目をまさか、民間企業が果たしている事が有るなんて・・・。 衝撃でした。 新聞、テレビ、あらゆるメディアを見る目が変わります。 社会派ノンフィクションですが、 エンターテイメント的な読みモノとしての魅力もアリ。			
	全部	405P (300分)		2009/02/20 20:42:01
evolv ☆☆☆☆	悪のカリスマの一人なのか。とてもかっこよく頭が切れた男は平和に尽くし人ではなかった。ジムハーフのかっこよさはなんなんだ。 ハーフの言葉をよんでもPRの仕事に就ける勇気のある人は勇者か蛮勇かわからないところである。それほど、ハーフの仕事に対する情熱が伝わってくる。 こんな人でも、部下として働いたらたぶんあまりの働きぶりに尊敬してしまうのだろうな。			
	1-52	52P (60分)	31	2009/02/20 01:11:28
uk ☆☆☆☆☆	大量の情報がそこらじゅうにあふれる現在。 自分に必要な情報とその情報が示している意味についてしっかりと把握せねばならない。			
	全部	405P (300分)		2009/02/19 22:11:39
反社会性人格者 ☆☆☆☆☆	世の中には誰かが意図的に作り出した情報操作的なワードというものが多く存在する。 昨今の日本では、「派遣村」などもそうであろう。 「派遣村」に助けを求めたのは元派遣の方々だけではなく、決して圧倒的マジョリティでもない。 本作では「民族浄化」がそれに該当するが、戦争が絡む問題においてそのような恣意的な造語が独り歩きする事を黙認して良いのだろうか。 戦争を食い物にしたPR企業、「ミロシェビッチの残虐性をいかにPRするかが我々の仕事だった」と平然と口にしたハーフ、病的にすら感じる。			
	51-88、109-132	62P (40分)	6章、民族浄化	2009/02/19 15:37:42
monkiti ☆☆☆☆☆	見せ方、視点を変えれば、何でも正しいこと様に見えてきてしまう。そして、それを仕事として意図的に操作できる人間にとても魅力を感じました。ボスニアの勝利（？）は最近でいうと、オバマの圧勝にかぶって見えてしまう。しかし、オバマは相手をけなすようなキャンペーンは一切していない。二者択一的なボスニアのPRと比較すればするほど、オバマの戦略の新しさが見えてくるように思う。			
	1-388	388P (210分)		2009/02/18 21:35:23

世界のニシテツ ☆☆☆☆	人間って本当に情報に左右されているんだなって思った。自分も自分の考えをもって情報の選択をしていきたい。			
	1-132	132P (120分)		2009/02/18 09:18:48

鍋工房 ☆☆☆☆☆	情報ビジネスの下地は、気まぐれで移ろい易い国民感情である。 自分の頭で考えるのは大変だし、面倒だ。さらに次から次へと新しいニュースが出てくるから早く結論がほしくなる。 だから他人が解釈した情報に飛び乗ってしまう。それで何かしら物事を知ったような顔をする。 読書にも同じ事が言える。 「読書は他人にものを考えてもらうことであるから、本を読むことは他人の思考過程をたどっているだけであって、自らの思索の自由を阻めることになる。」のだそうだ。(これも本で得た知識) 思索を欠いた行動だけはとるまいとの思いを強くした。			
	全部	405P (350分)		2009/02/15 17:31:00

kazuki ☆☆☆☆	正義とか正しいって何なんでしょうかね。 戦争は恐ろしいです。			
	1-204	204P (90分)		2009/02/13 01:37:44

yatta ☆☆☆☆	「民族浄化」と「虐殺」という言葉。どちらの響きが心に刺さってくるか？おそらく浄化という言葉は、虐殺という言葉に比べてインパクトは小さい。やっている内容は同じなのですが・・・言葉一つでもつ印象が変わってくるものです。			
	109-131	23P (20分)	114-115	2009/02/12 16:09:03

chor ☆☆☆☆☆	戦争も情報戦とは言うがここまでとは。何が正しいかなんて所詮、みみんなが「正しい」というものなんですね			
	14-278	264P (120分)		2009/02/06 21:43:23

＆ＤＯ ☆☆☆	情報、イメージ等が予想以上に重要な役割を占めていると思った			
	1 - 40	40P (30分)	1-40	2009/02/03 17:37:33

forex ☆☆☆	序章からでも近代戦争における情報戦の意義がひしひしと伝わってきた。 イメージ戦略というのは戦争のみならずビジネスの面でも無視して通り過ぎることはできないと思う。			
	1-5	5P (10分)	特になし	2009/01/02 22:05:10

chicken-run ☆☆☆☆☆	高邁な理想を掲げて、ただ行動するだけでは世の中は目を向けてくれない。良くも悪くもそのことを実感させられた本でした。 全く同じものでも、宣伝や表現の仕方ひとつで全く違ったものとして人々に認識させることが出来ます。この本で挙げられている事例は、国家間という大きな舞台の話ですが、個人レベルの話でも十分に通用する概念だと思います。 自分でもっと深いところまで研究したくなりました。 いや、本当に面白かった。			
	全部	405P (120分)		2008/12/28 02:49:02

弟子 ☆☆☆☆	毎日ニュースを見ればよくわかんないような法案でおっさんたちが論弁を繰り広げ、支持率が下がりいの、失言の揚げ足取りいのしあってる。新聞を見ればだいたい一面には議員の名前があり、なんかわからん議論を繰り広げているということが書いてある。もちろんその論点の内容はほとんどが国内のことであり、世界情勢だの世界経済だのはよっぽど日本に関係のあることしか触れられない。きっとこの人たちにとって、世界なんてどうでもいいのかもしれない。 そんな中でニュースや新聞を読んでいる人たちのうちおそらく大多数の方々が、まあこの人らに任せてれば何とかなるんじゃないだの、日本が転覆するようなことはないんじゃないかだの思いながら、なんとなくそこに映し出されていることを俯瞰している。別にマスコミを信用しているわけでもなく、議員の話した内容を信じているわけでもなく、ただ何か、そういったものが存在することを理由もなしに信じている。 嗚呼、日本という国にいてよかった。この本を読んでみて本当に心からそう思う。			
	all	405P (120分)	13章	2008/12/16 12:29:50

非食用もやし ☆☆☆☆	アメリカでは企業が世論操作を用いて戦争問題に介入している。 そして、それがボスニアの独立を助けたことはこの本からうかがえるが。市民に偏見を植えつけることによって戦争が起こってしまうということには恐れを感じざるを得ない。 それにしても、終始日本がしょぼーん(´・ω・`)なことになってる。			
	1-204	204P (200分)		2008/10/31 21:35:09

ザルカヴァ ☆☆☆	情報操作により真の姿を隠し、イメージを美化することが出来る。 最近では、食品偽装などの話とも似たような印象をうけた。 我々は、いったい何を信じたらいいのか。			
	全部	405P (300分)		2008/10/30 01:20:07

joker ☆☆☆☆	おすすめ。戦争に関わっているアクターは、見えるものだけではない。 こういった観点も大切だと思います。		
	1-405	405P (120分)	2008/10/23 12:23:21

自由教育 ☆☆☆☆	紛争の影にある壮絶な情報戦。国家を顧客とするPR企業。私たちの知らない世界がこの本でかたられている。情報操作の脅威を感じられる、ためになる一冊。		
	133-180、279-384ページ	154P (75分)	2008/10/22 23:45:57

うみねこ ☆☆☆☆☆	しっかり読むつもりはなかったけど、読んじゃいました。 ＰＲ業界という、自分の全く知らない世界があることに驚いた。 日々報道される情報などの映像はなんとなく客観的なものだと思っていたが、実は意図するしない問わず記者の感情が入るものだと知った。		
	1-401	401P (330分)	2008/10/17 11:17:07

ＴＯＰへ

トゥイーの日記

著者名	ダン・トゥイー・チャム	発行年	2008年
出版社名	経済界	ページ数	215ページ
値段	1,524円	ISDN	978-4-7667-8428-2
コメント	ブログじゃない。人に読まれることを想定していない日記は、自らを励ましたり、落ち込んだり、党への忠誠や恋心や、日々の正直な葛藤に満ちている。戦場という苛酷な環境だから、よりいっそう自省の刃が研ぎ澄まされるのか。 ベトナム戦争。戦場の医師として青春を送った彼女がアメリカ軍との戦闘で亡くなったのは1970年６月22日、享年27歳 そして35年という歳月をかけて、日記だけが母のもとに帰り、繁栄へと向かうベトナムでベストセラーとなった。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆	乙女心を垣間見た、そんな気持にさせてくれる本です。 そして、絶望的な状況はあるものの、 全体にわたって悲壮感がないのが、すばらしい。 芯の強い心とは、こういうものなのだと感じました。 人生に絶望感を感じている人に、お勧めです。 もちろん、平和について考えたい方にも。			
	全部	215P (120分)		2009/02/20 20:55:41
chicken-run ☆☆☆☆☆	一般に、戦争というものは兵隊同士の戦いだけだと思われがちだが、同時にその後方にいる何十何百倍の数の民間人もその無慈悲な暴力に巻き込まれているということを忘れてはならない。 特に、ベトナム戦争のような「後方」がはっきりしないような戦いではそれは顕著である。そのことを嫌でも思い知らせてくれた本でした。			
	全部	215P (120分)		2009/02/19 12:27:10
takuto ☆☆	なんだか暗ーい内容が延々とかいてあった。			
	１－５０	50P (30分)		2009/02/19 11:03:02
・・・からお越しの ☆☆	実は最初に名前だけで手にした本。。。 ていう感じです。			
	1-127	127P (180分)		2009/02/19 00:32:16
besevener ☆☆	よくわからなかった。			
	1-50	50P (30分)		2009/02/09 08:33:36
sweets ☆☆	全俺が泣いた。 もうちょっとうまく訳せないものか？			
	all	215P (90分)		2009/01/27 15:37:45
snsk	日記だけに、とても細かくその日その日の感情が書かれていたが、ずっと読んでいると気分が暗くなってきてしまった。			

☆☆☆	1-124	124P (40分)		2008/12/03 16:09:06

Ian ☆☆	ベトナム戦争の悲惨さよりもトゥイーの感情ばかり記述されていて あまり面白くなかった。日記なので仕方ないといえばそうなのだが。			
	91-124	34P (20分)		2008/11/23 20:57:57

自由教育 ☆☆	ベトナム戦争についてあまり知らなかったために、日記に込められた想いがあまり伝わってこなかった。			
	4-62ページ	59P (30分)		2008/11/17 17:56:55

弟子 ☆☆	「日記」と「diary」は別物の気がする 読んでいてどうも居心地が悪かった。これがエッセイとかノンフィクションとか言われたら素直に読めるのだが、日記といわれると躊躇してしまう。誰かに読まれることを前提としていない文章を読むことは、なんというか罪悪感を感じずに入られない。内容はつまらなくはなかったが、なんとも居たたまれない気分になって読むのをやめてしまった。			
	4-62	57P (10分)	?	2008/11/11 12:33:39

DNA ☆	申し訳ないが魅力を感じなかった。			
	1-105	105P (50分)		2008/11/11 09:38:53

so ☆☆☆☆	戦争中に患者を助けつつも、昨日までは仲のよかった人がどんどん死んでいく悲しさと１０年間も実らぬ恋をしているつらさが、日記からすごく伝わってきた。 日がたつにつれてだんだんトゥイーの成長が見られた。			
	1-193	193P (300分)		2008/11/05 00:45:35

kate ☆	あまり個人的には好きでない物語でした。			
	1-120	120P (60分)	1-120	2008/10/20 13:52:11

ＴＯＰへ

絵はがきにされた少年

著者名	藤原章生	発行年	2005年
出版社名	集英社	ページ数	229ページ
値段	1,600円	ISDN	978-4087813388
コメント	１葉の写真で分かったつもりになってはいけない。「ハゲワシと少女」の裏側の物語をこうやって教えてもらえれば、確かにそう。けれど、世界は説明なしの写真であふれている。 せめて、簡単に分かったつもりにならないことで、しっかり現実を見据えよう。そんな気概で著者はアフリカの現実を歩く。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ketume ☆☆☆☆	「ハゲワシと少女」の写真は衝撃的だったが、それを撮った写真家が自殺していたのはもっと衝撃的だった。			
	17-36 89-115	47P (30分)	28-30	2009/02/19 12:25:06
Karagounis fan ☆☆☆☆	「どうして僕たち歩いているの」 という言葉に戸惑う筆者。 実際にこんなこと言われたら何もいえなくなりそう。 写真をみてかわいそう・・・、助けるべきだ、と思うのは間違ってないと思うけど、それだけでは駄目なんだな、と思わされた。			
	37-115,209-245	114P (50分)	42	2009/02/18 11:12:02
joker ☆☆☆	素材としていいと思います。ここからなにを考えるか。 ふと思ったこと。 絵葉書に限らず、ルポ全般に言えることだけれど。 報道する側の伝えたい気持ちはわかる。 ただ、一般的に、 撮るひとはsubject. 撮られるひとがobject. だが、撮られた写真について考えると。 photographic-とつけるだけで、 photographic subjectは被写体を指し、先のobjectと一致する。 自分たちのために撮るのではないのにな、と。 どうしたら目的や目指すことにしっかり焦点を当てて行動できるのか。 ふと他の考え事とあいまって、そんなことまで考えました。あまりほんと関係なくなってしまい失礼しました。			
	1-229	229P (100分)		2009/02/16 13:52:45
yatta ☆☆	『物乞う仏陀』と同じような話の展開と思って読み始めただけに、ちょっと残念だった。いまいち臨場感というものが感じられなく、本の世界に入りこめなかった。			

	1-50	50P (70分)	37-50	2009/02/16 09:38:05

kazuki ☆☆☆	何かを伝えたくても受ける人によっては非難の対象になってしまうことがつらい。			
	1-160	160P (90分)		2009/02/13 01:43:40

反社会性人格者 ☆☆☆☆	本書は第二部の「絵はがきにされた少年」がそのままタイトルに使われているが、ここで語られている「少年期の写真を絵はがきに勝手に使われた老人」に関しての一節がアフリカの貧困の根本的な理由を示している。 アフリカの貧困が過酷な気候や部族単位での行動によるものである事はまぎれもない事実だが、それだけではない。 価値観とは何か、無知とは何か、読者は深い共感を得られるであろう。			
	1-229	220P (180分)	第二部の「絵はがきにされた少年」	2009/02/02 22:36:41

上場亮 ☆☆☆☆	それぞれの写真に訴えかけてくるものがあり、その程度はまちまちだったが誰しも何かしらをかんじることのできる本だと思う。			
	全部	229P (90分)		2009/01/26 21:29:14

ザルカヴァ ☆☆☆☆	表題の章のみ読んだ。７０年も昔のアフリカを捉えた１枚の写真は、「アフリカと情報」を象徴するものだった。日本の戦争を捉えた写真にも、このようなものはあるのだろうか。			
	89-115	26P (15分)		2009/01/13 23:00:42

弟子 ☆☆	読めば何か解る気がして読んだけれど、結局何も解らなかった。			
	17-179	163P (40分)	しゃしん	2008/11/25 01:01:11

sweets ☆☆☆	写真家の友人のインタビューの部分が面白かった。			
	all	229P (90分)		2008/11/19 23:31:17

takuto ☆☆☆	カメラマンがより良い写真を撮るために命をかけていることや撮った写真が公にさらされることで非難の対象にもなりうることがわかった。			
	1-150	150P (150分)		2008/11/10 16:40:06

kate ☆☆☆☆	正直、最初にこの写真を見たときは、どうして助けてあげないんだ、と思ってたが真実を知った後では自分の考えがいかに軽率だったか思い知らされました。			
	1-229	229P (130分)		2008/10/20 13:54:51

ＴＯＰへ

カラシニコフ　Ⅰ・Ⅱ

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	朝日文庫	ページ数	528ページ
値段	1,200円	ISDN	978-4-02-261574-9
コメント	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」。第１章「少女兵」の話がつらかったら、第３章あたりから。 　そして、アフリカメインだった第１部に続き、第２部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。 　人が人をとても手軽に殺せてしまうＡＫ47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
柴 ☆☆☆☆	本に映し出されている世界情勢が、あまりにも今の生活とかけ離れていてぞっとした。			
	248-281	34P (20分)		2009/02/20 10:15:38
ベル ☆☆☆☆	銃よりもコロンビアの情勢が気になった。 ルポルタージュならではの緊張感を感じつつどんどん読めました。			
	Ⅱ1-66	66P (40分)		2009/02/20 02:13:54
takuto ☆☆☆☆	拳銃を触ったこともない自分にとっては新鮮な作品でした。			
	１－２５０	250P (300分)		2009/02/19 10:41:55
世界のニシテツ ☆☆☆☆☆	一つの銃をめぐってこんなにも深い話があるのかと思った。前評判通りのいい本でした。			
	Ⅰ　17-110	104P (90分)	全部	2009/02/18 09:12:07
Karagounis fan ☆☆☆☆	最初からかなりショックな内容。長袖とか最初は何言ってるのかわからなかった。 Ⅱでは純正とかコピーとかどんどんＡＫが一人歩きしていく様子に怖さを感じた。			
	Ⅰ17-110、Ⅱ103-192	184P (100分)	Ⅰ44-46	2009/02/17 12:25:57
TAK ☆☆☆	表紙読みです。			
	1	1P (1分)		2009/02/16 18:53:33
evolv ☆☆☆☆☆	ただ一丁の銃にこれほどのドラマがあるだろうか。 世界を渡り歩く最高の武器はとてもシンプルなものだった。 それに翻弄され、殺されていく子供たち。 私たちは彼らの現実を直接見ることも、聞くことも、思い描くこともできないだろう。今回も本から彼らの過去の一部をのぞき見るだけである。			
	全部	528P (180分)	2章	2009/02/14 03:32:26
ri-si- ☆☆☆☆☆	私は生きている間に銃とくに機関銃などみることがないかもしれない。そんな世界に生まれている私たち日本人と正反対の世界で起こっている現実！このことをもっと考えなければいけないと思いました。			
	all	528P (250分)	あとがき	2009/02/09 10:30:40

besevener ☆☆☆☆	もっと現実を知らなければと思った。			
	1-272	272P (240分)		2009/02/09 08:07:50

たくや ☆☆☆	子供が銃を持つ国があること、それが未だに存在する事を考えさせられた。 世界から銃や武器がなくなるのはかなり時間がかかる、もしくは永遠になくならないかもしれない。 けれど大人たちが純粋で素直な子供たちを人を殺すどうぐのように使ったりする世界はどうにかなくなって欲しいと思った			
	18～110	92P (90分)	第一章	2009/02/05 13:29:16

DNA ☆☆☆☆	吸い込まれるように読んだ。 境遇って、大切ですね。			
	1-528	528P (320分)		2009/01/27 15:21:20

sweets ☆☆☆☆	Ak47のすごさに感心。 世界の武器の流れもわかる。			
	all	528P (250分)		2009/01/27 15:17:02

継承者 ☆☆☆☆	二章の開発者に取材しているところがおもしろい。AK銃を生み出す経緯はすごく印象深い。			
	1-119	148P (120分)		2009/01/24 00:14:58

弟子 ☆☆☆☆☆	まるまる全部コピペしようと思ったが、きっとみんなしないと思ったので、さわりだけ。 『この地球上の遠い国では、毎日人が人を殺しあってます。食料のため、民族紛争のため、戦争のため、人は銃を手に持ちます。この本は、そんな人々の手の中にある、AK47という突撃銃について書かれた本です。 濫読する人は、この本を読まないで下さい。読んでも2章だけ読んで下さい。』			
	all	269P (0分)	二章	2009/01/19 02:24:36

david wright ☆☆☆☆	アフリカの子供は気の毒			
	1-528	528P (12345分)		2009/01/17 10:11:34

ザルカヴァ ☆☆☆☆☆	日本という平和な国に住む我々には考えられないような状況が、この作品の中には当たり前のようにある。 これがアフリカの実情なのか。 日本の治安の良さ、教育環境の良さに改めて気づく。			
	全部	528P (240分)		2008/12/09 15:22:45

yatta ☆☆☆☆☆	生まれた境遇により戦争を強いられる。そして戦争しか知らないままに大人になってしまう。大人が始めた愚行に何も知らない子供たちが巻き込まれてしまう。月並みだが、戦争はしたくない。			
	Ⅰ1-274　Ⅱ1-281	555P (250分)	Ⅰ17-66	2008/11/12 23:21:46

Ian ☆☆☆☆	AKという銃の流れをたどる事によって、あまり知ることの無い社会の闇の広がりを少し認識できた。			
	Ⅱ1-121	121P (80分)		2008/11/10 22:24:32

chicken-run ☆☆☆☆☆	AKがいかに優秀な銃であろうと、所詮は「道具」であり、自身の意思を持ち、国を滅ぼすなんてことはありえません。国を荒廃させ、人々を殺すのは、常にその「道具」を持った「人」であるということを忘れずに、読んで欲しい。 同じ著者の「アフリカ・レポート」と併せて、第三世界の事情について知りたい人には一押しの本です。			
	1－528	528P (200分)		2008/11/10 21:26:47

kate ☆☆☆☆	日本では考えられないような事が平気で起こっていて、利権しか追い求めない為政者のせいで苦しんでいる人たちがたくさんいる。普通に生活していたら知り得ない事をたくさん知れた。			
	1－528	528P (250分)		2008/11/04 08:38:16

!? ☆☆☆☆	AKを密造している村を政府が黙認しているのにはびっくりした。			
	下16-66,146-192	98P (120分)		2008/10/31 15:53:33

宅急便 ☆☆☆☆	世界には、日本にいると想像もできないような事例がいくつもある。 そういうことを知る意味でも読む価値がある。			
	18-204	187P (120分)		2008/10/27 22:01:04

非食用もやし ☆☆☆☆☆	あ・た・れ なんと、他力本願な考え…、さすが、日本。			

	Ⅰ　1-174	174P (150分)		2008/10/22 19:36:25

うみねこ ☆☆☆☆	具体的な個人のエピソードが面白かった			
	Ⅱ1-101	101P (120分)		2008/10/21 02:24:04

joker ☆☆☆☆☆	一押し。ただ、ルポ全般に言えることだが、「かわいそう」「〇〇が悪い」という偏った視点にはならないように読んでほしい。社工のひとならきっとそんなことはないと思うが。 ひとつの事実、ケーススタディとして、面白い作品だ。			
	1-528	528P (200分)	全部読もう。	2008/10/20 14:03:38

snsk ☆☆☆☆	カラシニコフ銃の存在によって社会が荒れ果ててしまった・・ リポートでの写真や生々しい会話などがそのまま読めて面白かった。 結局この本はこれを伝えたいんだ！ということが特に記載されていないので、押しつけがましくもなく読者が自由に感じることが出来てよかったとおもう。			
	1-158,242-268	185P (90分)		2008/10/18 00:32:21

ＴＯＰへ

カラシニコフ自伝

著者名	エレナ・ジョリー	発行年	2008年
出版社名	朝日新書	ページ数	234ページ
値段	740円	ISDN	978-4-02-273206-4
コメント	彼の最初の発明はハンコ。書類を偽造するための。その発明によって家族ごと配流されたシベリアを脱出する自由を手に入れた。そして軍隊へ、銃の設計に没頭する日々へ。 「私は兵士たちに、彼らを裏切らない銃を贈ったのだ」。自らの発明の及ぼした、あるいは及ぼしつつある影響のとてつもない大きさを噛みしめるかのように、83歳の老人はしずかに来し方を語る。今やＡＫ47は、自由を求める者の手にも、自由を抑圧する者の手にも標準装備されている。特許も取っていなかったそのＡＫ47から、彼は１コペイカたりとも収益を受けとっていないという。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かける ☆☆	あまり興味がもてなかった。			
	まえがき＋少し	30P (20分)		2009/02/20 11:44:10
heat-active ☆☆☆☆	作ったのは銃であっても、自分の欲を捨てて一心不乱に銃制作に励む男の物語は学ぶべき点が多かった。印象に残った言葉は「カラシニコフ銃１丁につき１ルーブルでもいいから国から支払われていたとすれば、私はそれを使って、相当数の若い発明家たちを支援できただろう」だ。			
	66-136ページ	71P (13分)	135ページ	2009/02/19 20:12:51
継承者 ☆☆☆☆	銃火器とか好きなんで、そういう人にはお勧め。 この銃が開発されるまでどうであったのか、その作り手達の思い入れなど、とても面白かった。			
	1-234	234P (180分)		2009/02/18 14:09:15
BLOWIN' ☆☆	カラシニコフがあるならワサビニコフがあってもいいんじゃないか。 とか思って手に取ったんですが。 銃兵器には興味がないので、あんまり乗りこなせませんでした。			
	28-63	36P (10分)		2009/02/16 23:02:35
joker ☆☆☆☆	ぜひ読むといいと思います。 カラシニコフ1・2と共に読むと更にお勧め。 「作る」というひとつのアクションにいろいろな想いと様々な結果がついてくる。いろんな側面でとらえて、ルービックキューブのような発想が大切だと思います。 価値や認識の問題に自分はとても興味があります。 自ら進んで社工に来たひとはきっとそうですよね？			
	1 - 234	234P (100分)		2009/02/16 13:47:34
ri-si- ☆☆☆☆☆	カラシニコフという人の銃に対する情熱と共に旧ソ連の歴史とそこに住んでいる人々の姿が見れた気がした。 日本に住んでいると一切見えない部分なのでこういう本から世界を知ることはとても大切だと思う。			
	all	234P (100分)	26-28,66-68,104-106	2009/02/12 19:30:31

Karagounis fan ☆☆☆	カラシニコフの、発明に対する誇りを強く感じた。 単に銃の歴史を説明するだけではない。			
	9-24,103-162,217-245	105P (50分)	9,18	2009/02/12 16:00:56

前田 ☆☆	こういう人もいるんだなぁというのがこの本の印象 重そうな話で途中でやめてしまったのでそんなに面白さは感じなかった いつか読みたくなったら読もうと思います			
	1-63	63P (50分)	1-24	2009/01/22 10:54:05

yatta ☆☆☆☆☆	カラシニコフという銃が誕生する前の部分までしかよんでないですが、一つのドキュメントとしておもしろかった。暇を見つけてこの先も読みたい。			
	1-101	101P (60分)	28-63	2009/01/15 22:07:01

chicken-run ☆☆☆☆	「カラシニコフ」、この名前が銃の開発者のものであるということを知っている人は、案外少ないのではないだろうか? 自分の名前を名づけられた銃が、世界中で人々を殺戮している。その心境はいかに？ その回答は是非自分で読んで確認してほしいが、私には技術者としての一つのあり方を示しているように思えた。 またその他にも、内部から見た当時のソ連を説明する本は意外と少ないので、その点でも非常に興味深かった。			
	全部	234P (120分)		2009/01/13 10:52:23

forex ☆☆☆☆	カラシニコフの少年時代から当時のソ連の社会が見えた。社会主義というものがどういうものかわかってたつもりだが、実在の人物の体験談としてそのエピソードを知ると改めて悲惨だなと思った。おそらくカラシニコフもそのような時代での創意工夫の体験から根本的には生まれたのだろうなと理解した。			
	1-50	50P (120分)	無し	2009/01/02 21:31:53

so ☆☆☆☆☆	カラシニコフの銃に対する姿勢にひきつけられてしまった。			
	1-149	150P (180分)		2008/12/29 14:15:27

うみねこ ☆☆☆☆	前半部分の壮絶な子供時代の話はとても興味深かった。また、一人の兵士としての戦争体験などよく覚えていたなと思うが、細かく書かれていていい経験になった。ロシアの現代史をおおかた見れて良かった。			
	1-162,218-245	189P (300分)		2008/12/16 02:02:25

反社会性人格者 ☆☆☆	家族と自分をシベリアに追いやり迫害したスターリンを責めず、自分の銃を広めたフルシチョフや、機密主義による世間からの隔絶から解き放ってくれたゴルバチョフを悪く言う。彼はやはり西側の人間とは違う。自伝ゆえ彼の意思がはっきり伝わる一冊。			
	1-234	234P (180分)	全部（起伏が少ない）	2008/12/10 21:07:49

evolv ☆☆☆☆☆	立ち読みポイントを指定しなかったのは、すべて読んで欲しいから。 　まともに生活していたら、一度は聞いたことがある名前カラシニコフ。この名前のだいたいの意味もみんなわかっているだろう。 　たったひとりの悪名高い名前をもつ産みの親は、誰よりもまじめに努力して、自国を救おうと思っていた、ただの普通の人。 　カラシニコフ銃のことは知っていても、カラシニコフのことは知らなかった。			
	1-234	234P (180分)	なし	2008/12/04 00:47:31

弟子 ☆☆☆☆☆	戦争屋さんは書かれていません。いるとしたらただのエンジニアか、ただの芸術家です。			
	9-186	178P (80分)	105-	2008/11/17 22:23:03

!? ☆☆☆☆	銃とか日本に住んでいる限り接点とかないので面白かった。			
	104-162	59P (60分)		2008/10/31 15:59:26

クマー ☆☆☆☆☆	カラシニコフ…不穏な響きに隠された１人の銃設計者の人生がその口から明かされる。 世界一有名な機関銃を設計した彼はなんと正規の高等教育を受けてなかった。 負傷して運び込まれた病院の中で独学で銃の設計を学んだと言う。 逆に教育を下手に受けてない分、彼の独創的なアイデアが盛り込まれた銃が生まれたのだろうか。			
	1-245	150P (60分)	82-136	2008/10/23 17:30:47

chor ☆☆☆☆	タイトルの通りカラシニコフ氏の自伝。世紀的な発明をしたにもかかわらず、彼の姿勢は極めて謙虚なものである。			
	1-170ページ	170P (90分)	特になし	2008/10/19 21:35:00

ＴＯＰへ

アフリカ・レポート

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	199ページ
値段	700円	ISDN	978-4-00-431146-1
コメント	『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。 　失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の２点をぜひ考えてほしい。 　ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万％、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 　疑問１　物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 　疑問２　権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
鍋工房 ☆☆☆☆	ドキュメントとしてありのままを記すのは正しいが、あれだけはっきりと「原因は為政者にあり」と述べているのだから、そちらの事情にも言及すべきだろう。モヤモヤした気分が晴れないまま終わってしまった。それが現実ということか。			
	全部	199P (150分)	中国人の章	2009/02/19 18:04:00
上場亮 ☆☆☆☆	アフリカは非常に興味深い国の塊だが、この本はありきたりな感じになっていると思う。			
	1-80	80P (120分)		2009/01/26 21:36:54
非食用もやし ☆☆☆☆☆	同じようなのがありすぎて、今まで何を読んだのか忘れていました^^; このような本を読んでると、日本人がいかに温厚な民族かわかるような気がします。 日本人でよかった〜。			
	全部	199P (250分)		2009/01/26 20:52:17
ザルカヴァ ☆☆☆☆	想像もつかないインフレ率１６万％。物価が1週間で3倍、４倍になることなど、自分には考えられない。			
	15-52	38P (30分)		2009/01/26 15:07:39
evolv ☆☆☆☆☆	アフリカの現状。農業の強かった国が目先の利益や政治の腐敗が招いて没落していった。これは今の日本にも言えることではないだろうか。 農業は日本では軽視され、政治は緩やかだが確実にその本質から離れてきている。天国から地獄に堕ちたようなお話は意外に身近で起こるかもしれない。 子供の未来は明るいと言ってきたが、本当は未来は暗いままだった。このような現実の重さが伝わってくる本だった。			
	1-86,125-172	134P (90分)	どこでもおもしろい	2008/12/18 00:29:06

sweets ☆☆☆☆☆	アフリカきっついなあ…と。 知識欲が刺激された。 ブラックアフリカにも行ってみたいと思った。			
	all	199P (90分)		2008/11/19 23:23:30

うみねこ ☆☆☆☆	あれだけ農業が良かったジンバブエが政府の政策ひとつでここまで農業がダメになり、国が壊れたのには驚いた			
	1-200	200P (150分)		2008/11/08 14:39:15

kate ☆☆☆	どんなに崇高な目的をもっている人たちでも金に目がくらんでしまうんだなと思った。			
	1-200	200P (120分)		2008/11/04 08:43:02

宅急便 ☆☆☆☆☆	この本の主題とはあまり関係ないが、資源があるとそれ以外の産業が育ちにくいのだろうと思った。			
	1-200	200P (150分)		2008/11/01 08:22:39

ri-si- ☆☆☆☆☆	日本が格差社会なんて・・・と思わせてくれる本です。			
	1-199	199P (100分)	１７４～	2008/10/30 01:46:11

DNA ☆☆☆☆	アフリカの現状を少し知れました。 全部読むと飽きるです。			
	1-199	199P (90分)		2008/10/28 04:25:15

弟子 ☆☆☆☆	遠い遠い国のお話です			
	all	199P (100分)	82-121	2008/10/21 16:08:23

joker ☆☆☆☆	これ読んで、興味を持ったら自分で考えよう、行ってみよう。笑 山室先生の指摘は、ある種、開発経済学というものに対しても質問を投げかけるもので面白いですね。			
	1-199	199P (90分)		2008/10/20 14:13:02

chicken-run ☆☆☆☆☆	「我々が豊かな生活をしているのに対し、アフリカの子供たちは貧困に喘いで、毎分＊＊人の割合で死んでいる。だから give me money!!」 よく聞く文句ですが、何故アフリカの人々はそれほどまでに生活に困窮しているのか？ そんな疑問に答えてくれる一冊です。 正直、もう手出しせずにほっといた方がいいのでは？と思いました。			
	全文	199P (120分)		2008/10/20 01:01:24

ＴＯＰへ

9.11　生死を分けた102分

著者名	ジム・ワイヤー＆ケヴィン・フリン	発行年	2005年
出版社名	文藝春秋	ページ数	358ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4163674308
コメント	いったい何が起きたのか。誰にも分からない大混乱のなか、100階建てのツインタワーから逃げるための15000人の戦いが始まる。数百名の証言で織り上げた、あの瞬間。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆☆	倒壊する１０２分の間に両棟内で何が起こっていたのか？ 読者は倒壊することを知っているが、本書の登場人物は知らない。 その差は読んでいて表現しがたいものがある。登場人物が多すぎて 米国の書評でも「読んでいて混乱する」との指摘がある様。が、 その読みにくさを全て差し引いても読む価値は十分すぎる程ある			
	全部	358P (300分)		2009/02/20 20:54:29
ミニブタぽん ☆☆☆☆☆	人の動きや混乱がリアルに感じられて、その場にいるような気分だった。 途中までしか読めなかったので、最後まで読んでみたい。 あの日、私が中学校から帰ると母がじっとテレビを見ていた。 同じ映像が何度も繰り返し放送されていた。 これ、映画じゃないんだよ。今、アメリカで起きたの。 母のその言葉はとても印象的で今でも忘れられない。			
	1－83	83P (100分)		2009/02/20 08:20:06
uk ☆☆☆☆☆	二機目の衝突はテレビでリアルタイムで見ていた。 ある日一瞬の出来事によってすべてが変わるかもしれない。 一事が万事。この本は読むべし。			
	全部	358P (350分)		2009/02/19 22:24:57
ヒトラー ☆☆☆☆☆	結構重い話ですが、世界を変えた大事件、臨場感あふれて興奮しました。 おすすめです。			
	1-131	131P (150分)		2009/02/15 21:47:30
鍋工房 ☆☆☆	生身の人間の姿が痛いくらい鮮やかに描かれている。 アメリカではこの後、非常にセンシティブな報道が繰り返されたのだろう。 ナショナリズムに突っ走っていったのも分かる気がする。 しかし重要なことは「アメリカの善良な市民が殺された」のであって、「善良な国アメリカの市民が殺された」のではないことだ。 当時は後者の報道姿勢が中心を占めていたように記憶している。それはとても恐ろしいことだ。			
	全部	358P (300分)		2009/02/15 17:44:25

evolv
☆☆☆☆☆

一年かけて読んでしまった。だらだらと読んでしまった。
一瞬で読むにはあまりにも重く、もったいない本でした。
一つ一つの人生が重く辛く悲しいものです。忘れてはいけないのは、この本に載ることもなく亡くなってしまった人たちがたくさんいるということ。

あの電話が私にも似た形でかかってきたら私は何を話すのだろう。

全部	358P (300分)	電話	2009/02/14 03:36:42

世界のニシテツ
☆☆☆☆☆

テレビの前で飛行機が突入していく瞬間をリアルタイムで見ていたので、あの事件はとても衝撃的だった。
今回の本を読んで改めてこの事件の大きさや悲惨さを知った。

1-100、250-358	208P (250分)		2009/02/12 13:25:46

Karagounis fan
☆☆

まず、名前が長すぎて登場人物が把握しづらかった。
それに場面も次々と変わるので状況が理解しづらい。なので内容良くても星２つ。

ビルの中にいたこの本の登場人物はビルが倒壊するなんて思っていない。それどころか階によっては避難さえしようとしない人もいた。情報の伝達ってこんなに上手くいかないものなのか、と感じた。恐ろしい。

82-218、308-378	208P (270分)	210-215	2009/02/10 23:23:31

下阪神
☆☆☆☆☆

中学生のころ、夜遅くに帰宅すると家族全員がテレビにかじりついていた。
アメリカのニューヨークにあるなんちゃらってツインタワーの片方が炎を上げて燃えていた。
驚いた僕に家族が教えてくれたのは、衝撃的な事実だった。

「飛行機がビルに突っ込んだ」

数分後、僕はもっと衝撃的な事件を目の当たりにした。

・・・・・・・

そんな記憶が蘇ってきて、怖くて読みたくなかった。
けどこの本は読まなくちゃいけないって思い、必死で最後まで読み進めた。

そんな９・１１がリアルに描かれた、大変興味深い本だった。

全	358P (300分)		2009/01/26 18:17:07

継承者
☆☆☆☆☆

思わず全部読んでしまった。
この事件は、崩れる瞬間の映像もリアルタイムで見ていた事件で、一番大きな規模の事件だったんではないかとおもう。
で、内容については、実際の被害者の証言とかを元につくられてて、あの事件の裏側？を知ることができます。

全部	358P (300分)		2009/01/23 23:42:50

david wright
☆☆☆☆

この曲を思い出します

悲しみの場所に灯された裸電球に似た光
それはほら吹きに毛の生えたにわか詩人の蒼い願い

華やぐ季節がそこまで来てるのに
相変わらず心をどこかに置いたまま

暗い目をしてたって
この星のリズムは
君に笑顔を降らすから
きっと　きっと　きっと

1-358	358P (180分)		2008/12/28 18:27:27

弟子
☆☆☆☆

第3章の所にこれ見よがしに栞を挟んだのは誰ですか
開いたらこのページだったので、おかげで此処から読まざるを得なくなりました

当時はまだ中学生で、帰宅したときのテレビに繰り返し映っていた９１１の映像は今でも覚えています。ＣＮＮで狂ったように二号機目が南タワーに飛び込む瞬間を反復しているテレビ画面の映像を克明に覚えています。不謹慎なようですが私はその時とてもわくわくしたことも覚えています。コレが現実なんだぜって思いながら。
あれから成長して、あらためてこの本を読むとなんだかあの時のわくわくが失われていくように感じました。本という形に押し込められてしまった出来事は既に歴史となっていまい、私にとって其れは年表の一文と同じ価値しか見出せないからでしょうか。少なくとも私にとっての９１１という高揚感はこの本には感じられませんでした。
本としてはすばらしい本だと思います。ノンフィクションだからこそ伝わる切迫した雰囲気や、混乱や絶望の中で人がどんな風に思い、感じ、行動したのかがひしひしと伝わってきました。でも、だからこそ私にとっての９１１はこの本にはありませんでした。

残念ながらコレが私の感想です。もしこの文章をお読みの方に被害者の方がいらっしゃるようであれば、このような感想を書いたことを私は平に謝らせていただきます。しかし、申し訳ないようですが私はこのような感想を持ったことは謝る気はありません。それだけはどうかご理解ください。ですが、せめてもの贖いとして、この本には高評価をつけさせていただきます。

67-81,107-131	40P (30分)		2008/11/25 03:02:23

yatta ☆☆☆☆	本としてはちょっと読みにくいかもしれません。 この本を読んで、このとち、きちんとした情報を逐次伝えることができたならば、失われることはなかった命が多くあったという事実にはショックでした。		
	全部	358P (80分)	2008/11/12 23:37:11

snsk ☆☆☆☆	私たちがテレビ画面を通じて知っている状況より、もっと現場は過酷なものだったことがこの本を読んで分かる。 名前が色々出てきて、暗記力に乏しい自分は途中で誰だったか分からなくなってしまったが… ニュースで伝えられるのとは全く違う衝撃を受けた。		
	67-354	288P (120分)	2008/11/03 00:44:31

joker ☆☆☆☆	「大変だった」ということを伝えたいのだとすれば、この構成もありかも知れないが、流れが散逸。 これを読んで何を思うか、みなに聞いてみたい。 事実列挙とコメントによるものなので、「どうするか・どうできたのか・どうしていくのか」を考えるのもよいかと。		
	1-358	358P (120分)	2008/10/21 13:17:42

宅急便 ☆☆☆☆	あのときビルの中でどんなことが起きていたのか、圧倒的な数の登場人物をつぎはぎのようにして綴られている。 まえがきにあるように、登場する名前が多すぎて状況の整理が追いつかない。完全に把握するためには多大な記憶力が必要だろう。 しかしその分、読んでいて押し寄せてくる様々な感情の波も半端がない。		
	1-209、355-378	233P (180分)	2008/10/20 22:57:07

ザルカヴァ ☆☆☆☆	ちょっと読んでやめようと思っていたが、なかなか話が進まず、どんどん読んでいった。結局最後まで読んでしまった。なんだかだまされたような感じだが、９.１１の背景のストーリーや、ニュースでは知りえない部分が際立つ。災害時のためにもなる本だと思う。		
	全部	358P (400分)	2008/10/19 20:43:30

ＴＯＰへ

カブールの本屋　ーアフガニスタンのある家族の物語

著者名	アスネ ・セイエルスタッド	発行年	2005年
出版社名	イースト・プレス	ページ数	356ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4872575781
コメント	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 　13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
鍋工房 ☆☆☆☆	ページをめくるたびに土埃が立ちのぼりそうな本。			
	全部	356P (350分)		2009/02/20 03:48:28
TAK ☆☆☆	表紙読みです。			
	1	1P (1分)		2009/02/16 18:55:57
joker ☆☆☆	最近アフガン難民のひとと接する機会があるので、この本も参考にお話を聞いてみたりしました。 ただ、こういったお話はよくも悪くもケーススタディ。 ただ、それもなかなかに大切なことだし大切にしたい視点。 物語としてはなかなか面白いのではないでしょうか。			
	1-356	356P (120分)		2009/02/16 13:41:37
ザルカヴァ ☆☆☆	どうやら趣旨と違ったところを読んでしまったようです・・・ 学校では異教徒を悪と教えられること、それは、思想の自由を奪われていくことの始まりなのだろうか。			
	255－266	12P (10分)		2009/01/26 15:10:17
ミニブタぽん ☆☆☆☆	結婚相手を選べないのも嫌だけど、夫が自分に飽きてしまって若い娘と結婚するということになった時に、自分も着飾って新たな結婚をお祝いしなきゃいけないなんて悲しすぎる。			
	1-30	30P (60分)		2009/01/19 14:22:19
takuto ☆☆☆☆	カブールの女の子が婚約相手を選べないのが切なすぎた。			
	1ー150	150P (180分)		2008/11/25 15:00:20

弟子
☆☆☆☆☆

私のいたところでは、ブルカよりもアバヤの方が一般的でした。

注意。この本には終わりはありません。ただただ主人公となっている家族についての日常が書かれています。前近代の日本にも似た男女の概念の違い、イスラム独特の伝統や宗教性をメインに添えながら、話は淡々と続いていきます。異文化である自分から見れば特異に思えてしまうなことでも、彼らにとって本当に特別なことなんて何一つないんだと思わされました。
蛇足ですが、「千夜一夜」が「アルフ・ライラ・ワ・ライラ」なので、「ライラ」はアラビア語で「夜」を意味します。この本を読んで、ライラのみならずイスラム圏の女性は本当に「夜」なんだなあと思ってしまいました。

all	356P (150分)	10章	2008/10/21 16:24:05

ＴＯＰへ

物乞う仏陀

著者名	石井光太	発行年	2005年
出版社名	文春文庫	ページ数	341ページ
値段	650円	ISDN	978-4-16-771791-9
コメント	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。　救いのない現実の連なりに暗然。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かける ☆☆☆☆☆	強烈な本だった。まったくしらない世界だった。 人間と社会の概念が拡張されました。			
	１・２・８章	142P (100分)		2009/02/20 11:41:02
鍋工房 ☆☆☆	一番重要なことは関心を持ち続けること。 それが一番難しい。			
	全部	341P (300分)	興味のある国	2009/02/20 03:56:15
takuto ☆☆☆☆	衝撃的な内容のオンパレードでした。			
	１－２００	200P (180分)		2009/02/19 11:04:19
BLOWIN' ☆☆☆	仏教とか宗教とかには興味ありませんが、楽しめました。			
	168-209	42P (30分)		2009/02/16 22:48:33
ヒトラー ☆☆☆☆	日本にだけいる自分が小さいと思った。違う文明について学べよかった。			
	1-166	166P (100分)		2009/02/15 22:22:10
sweets ☆☆☆☆	おもしろかった 一気に読めた 去年ホーチミンで両足の無い物乞いがうるさく、その人が嫌な感じだったのでとても安い金額を渡したら、キレられ、その金を投げつけられたのを思い出した。			
	all	341P (150分)		2009/01/27 15:08:09
evolv ☆☆☆☆	とても日本にはないお話。ヒストリアンにはアフリカレポートや神の棄てた裸体、カラシニコフとこれ系統の作品が他にもあるがこれの最大の違いはとってもドラマチックではないということ。どこまでもドラマチックにかけるような状況を淡々と連なる文章が癖になり、鬱になっていく。知人に勧めると自分の性格が疑われそうだから勧めにくいが、この授業を取っている方には是非一読して欲しい作品だった。			
	1-12，49-86，127-166	100P (60分)	死に神の村にて	2009/01/26 02:01:13
kate ☆☆☆☆	日本にいては分からない世界を知る事ができた。			
	10-305	295P (250分)		2009/01/21 16:51:13

kabadie ☆☆	乞食という社会的に弱い人たちなのになんで楽しそうに生きてる人がいるのか、なんだか不思議に感じた。			
	10-341	331P (240分)	168-209	2009/01/21 01:02:03

下阪神 ☆☆☆☆☆	東南アジアの現状がリアルに描かれていた。 旅行に行った友人に聞いても絶対に話に出てこなかった内容が色濃く描かれていて、普段何でもない幸せを当たり前と感じている自分が恥ずかしくなる、そんな内容だった。			
	1-340	340P (300分)		2009/01/15 13:27:24

☆ ☆☆☆☆	平和な日本に暮らしていると見えてこないことだった。グロテスクな描写もありショッキングな内容だった。 なんでもない幸せをかみしめたいと思った。			
	1-184ページ	184P (250分)	表紙	2009/01/15 11:56:25

ザルカヴァ ☆☆☆	カンボジアでの話だった。同じアジアでも、生きるために乞食をしなければいけない地域もあるということを思い知った。			
	1-39	39P (30分)		2009/01/13 22:57:39

うみねこ ☆☆☆☆	良くも悪くも、かなりのショックを人に与える本。 題名を見て仏教の話かと思っていたらそうではなかった。			
	1-34,285-309	69P (60分)		2009/01/12 00:10:44

宅急便 ☆☆☆	自分の持つ常識と感覚では、素直に飲み込めない話だと思う。			
	10-38,88-110	51P (50分)		2009/01/04 14:21:35

yatta ☆☆☆☆☆	同じ著者の書いた『神の捨てた裸体・・』を読んだ後に読んだのだが、『神の・・・』はどちらかといえば大人について、この本は子供についての本といえるのだろうか？立ち読みポイントにしたページは、人によってはかなり衝撃があると思われるので、残酷な内容が苦手な人は読まないほうがいいかもしれません。			
	all	341P (120分)	286-333	2008/12/09 21:48:28

Ian ☆☆☆☆	カンボジアなどではこんな生活が普通なのかと思った。			
	10-43	34P (30分)		2008/12/06 17:18:45

ketume ☆☆☆☆☆	この授業を取ってなかったらこの本を読むことはなかったと思います。衝撃的な内容で、気付いたら全部読んでました。日本に生まれて、健康に生まれて、ホントよかったと思える本です。			
	all	341P (180分)	88-126	2008/11/30 23:44:06

自由教育 ☆☆☆☆	現実に起きていることとは思えない内容だった。海外には、まだまだ知らない世界がたくさんあるのだと思う。			
	16-86ページ	71P (60分)		2008/11/02 13:55:47

弟子 ☆☆☆☆☆	「どこの惑星のお話ですか？」			
	all	341P (120分)	四章	2008/10/28 12:37:56

DNA ☆☆☆☆	刺激的でした。 部分的に読むのはお勧めしますが全部読むのは飽きるからお勧めしません。			
	1-340	340P (240分)		2008/10/25 01:27:49

非食用もやし ☆☆☆☆☆	とても、面白いです。 いえ、とても痛いです。 読んでいる最中に体中が痛くなります。 電車の中で読もうとしている人はご注意ください。			
	15-48 286-333	80P (60分)		2008/10/22 19:30:34

ＴＯＰへ

神の棄てた裸体　－イスラームの夜を歩く

著者名	石井光太	発行年	2007年
出版社名	新潮社	ページ数	295ページ
値段	1,500円	ISDN	978-4103054511
コメント	印税すべてを握りしめ、彼は再び旅へ出る。28歳になっていた。 またしても、凄まじい現場へ、強靱な精神力で立ち向かってゆく。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
鍋工房 ☆☆☆	フィクションであろうがノンフィクションであろうがファンタジーであろうがドキュメンタリーであろうが読んでる僕にとっては等価だ。 文字情報によって得た知識は文字情報によって容易くひっくり返される。 内容はともかく、 何かしらの出来事→著者の言動→実はそれは見当違いだった→反省→適当なまとめ という構成ばっかりなので飽きます。			
	全部	295P (200分)		2009/02/20 05:14:53
takuto ☆☆☆	評価が高いので是非また借りて読みたい。			
	１－１	1P (1分)		2009/02/19 10:55:31
heat-active ☆☆☆☆	発展していくアジアの影にはこのようなことが起きているのかとにわかに信じられなかった。しかし、みな生きていくために必死であり、やむを得ずこのような行動に走ってしまうのかと思うと胸がつまる思いがする。			
	13-92ページ	80P (22分)	46ページ	2009/02/08 00:27:40
sweets ☆☆☆☆	興味深かった。 言ってることは物乞う仏陀とたいして変わらない。			
	all	295P (120分)		2009/01/27 15:14:11
クマー ☆☆☆☆☆	読んでいて辛くなる１冊。 どうにかしたいと思いつつどうにもできない自分に苛立つ著者。しかし道徳がどうとかいう話で済む問題ではない。彼ら、彼女らも生きるためにやっていることなのだ。 もちろん人権とかを考えたら人身売買とか少女売春はどうにかしないといけない。けど今はそうやって生きている中での彼女たちなりの幸せを願うしかないのではないか。そんなことを思った。			
	1-310	295P (60分)	255-277	2009/01/14 15:05:10

chicken-run ☆	日本に生まれ、平和に浸りながら何一つ不自由なく育った著者が、その価値観のまま第三世界の国々をまわって、そこの最下層に生きる人々に「善意の」施しをしたり、干渉したり、挙句の果てに説教までしたりする本です。 基本的に著者の主観と憶測に基づいたことしか書かれていないので、第三世界を知るための資料としての価値は全くもって無きに等しいです。 構成は国ごとにいくつかのパートに分けられおり、それぞれが明確な起承転結を持ち、所々に後に続く伏線などがあったりする、まるで小説のような非常にドラマチックな物語になっています。 一応全部読みましたが、正直紙屑以下の価値しかない本だと思いました。			
	全部	295P (180分)		2009/01/13 11:33:43

evolv ☆☆☆☆☆	アフリカレポートに通じるところがあるような作品。連続で読んだ私としては少し鬱になりました。 本としては、紀行文って感じで、読みやすくスラスラと情景が浮かんできます。そのためドきつい。 アフリカレポートとの比較になってしまうが、あれは人の振り見て我が振り直せ的に読んでいけるが、これはもう別世界のお話のように私の生活から信じられない世界。この世に実現して欲しくないファンタジーを読んでいる気分だった。			
	1-150	150P (120分)	一章	2008/12/18 00:33:59

forex ☆☆☆	性に関する内容が書かれている作品だった。 ただ、作中にも書かれているように日本人の価値観でこの作品に描かれている人々の価値観を計ることはできないと思った。 そして、日本人と違う価値観を持った人々に日本人の価値観に基づいた意見を主張することはただのお節介に他ならないとも思った。			
	1-112ページ	112P (180分)	なし	2008/12/01 16:57:29

DNA ☆☆☆☆☆	貧富の差。 人間は罪深い。必要以上に欲しがる。そして正義を気まぐれに愛する。人を恨んでも自分を恨んだりはしない。 まだ命さえも知らない子供が子供を孕み悪戯に命を奪う。 人間はか弱くて痛みを嫌い、愛を詐称して正当化する。 金のあるヤツ。恵まれた人生なのに自ら生きることを破棄する愚か者。 優しい善人のふりをして自分に酔いしれてるだけではないだろうか。 でも、それがか弱い人間なのです。			
	1-295	295P (200分)		2008/11/11 09:05:05

yatta ☆☆☆☆☆	“ 残念ながらこの本の内容を事実なんかじゃないんだって認識する ”と書いていたひとがいたが、それは現実に起きているかもしれないことから目をそむけているだけだ。確かに自分自身で体験したことではないから単なる作り話の可能性もあるのかもしれない。しかしながら、私はノンフィクションの作品として読み始め、これは間違いなく現実に起きていることだと確信している。なぜなら、フィクションだとしたらこの本にここまでのみこまれるわけがないから。			
	全部	295P (100分)	133-163	2008/10/28 00:25:53

弟子 ☆☆☆☆☆	さて、ちょっと喧嘩でもうってみる。 このあといったい何人が「私たちの知らないところでは〜」とか「今も現実に世界では〜」とか書くのかが興味津々だから口火を切って先に書かせてもらうことにする。私は残念ながらこの本の内容を事実なんかじゃないんだって認識する。 同情も共感も憐憫も感嘆も慟哭もしない。干渉も望まなければ羨望も果たさないし感想も持たなければ思料につながらない。それはただひたすらに拒絶することぐらいしかできそうにないから。もしくは子供じみた自伝的物語としか消化できないから。 だけれどもこの本は来年度の講義まで残しておく価値があると思い、僭越ながら最高評価をつけさせていただく。 さて、何人がこの本に低評価をつけるのだろうか、楽しみだ。			
	all	295P (120分)	164-180	2008/10/21 16:04:56

ＴＯＰへ

中国臓器市場

著者名	城山英巳	発行年	2008年
出版社名	新潮社	ページ数	220ページ
値段	1,400円	ISDN	978-4-10-308081-7
コメント	社会の暗部。見ないで済むなら、そのほうがさいわい。 それでも、という方のみ、どうぞ。 厳罰主義の中国では死刑執行が年間千件（もしくは一万件＝闇の数字）。ドナー確保に最適のビジネス・チャンスに、国が、医師が、そして（日本人を含む）患者たちがどう絡まりあっているかという鬱々たるお話です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
反社会性人格者 ☆☆☆	そもそも倫理とは何だろうか。 倫理的に正しい、間違っているとは個人レベルでどの程度違う物なのか。 もし人によって基準が大きく変わるのなら、そもそも臓器提供のシステムはうまく行く筈がないでしょう。 一番手っ取り早い解決は、臓器提供をした死刑囚に是か否か聞いてみる事です。			
	10-53	44P (15分)	1章	2009/02/19 17:34:44
ketume ☆☆☆☆	臓器移植を待つ人は世界に数多くいる。自分がその人たちと同じ立場だったらこの本の内容全てを批判することはできないかもしれない。しかし、患者をだまして、臓器を売る行為はどんな立場であろうと認める訳にはいかない。金の持つ魔力に魅了された人間の恐ろしさを改めて知ることができた。			
	all	220P (180分)	98-112	2009/02/19 14:25:36
BLOWIN' ☆☆☆	自分達が持っている倫理観とはかけはなれているように感じたが、彼らにとってはそれが当たり前なのだろう。しかし、どこか違うような気もする。 むずかしい内容です。			
	1-105	105P (100分)		2009/02/15 20:01:00
下阪神 ☆☆☆☆	中国という国はつくづく怖い国だと痛感。 差別だとか裏取引だとか汚い部分も垣間見える一冊。 そもそも臓器「市場」という言葉だけでも震えた。			
	全部	220P (150分)		2009/02/04 12:31:14
sweets ☆☆☆	中国は金とコネだということがよくわかる。流し読みでおk。			
	all	220P (95分)		2009/01/27 15:09:53
上場亮 ☆☆☆☆	社会には明るみに出ない裏の一面があるが、その氷山の一角として 臓器売買があり、それが抽象的ながら刻銘に描かれている。			
	全部	220P (180分)		2009/01/26 21:33:58

evolv ☆☆☆☆☆	突然起きたら肝臓は切られているは、旦那は死んでいるどころか、ばらばらにされているはと実際にあったら怒りがおさまらないような話が実際に起きている。 この本を読むと中国がとっても嫌いになります。少しだけいいかなと思っていたのが駄目になります。餃子はまだ買えそうにありません。 中国の常識にはついて行けません。			
	98-198	101P (80分)	98ページ	2009/01/26 02:08:14

うみねこ ☆☆☆☆	へーそうなんだ、と思わせられる本。 命というものの値段というのは、それが脅かされているものにとってはものすごく高くつくというのがわかった。倫理を守るという理想ととにかく生きたいという現実の埋まらない差があることがわかった。			
	1-91	91P (90分)		2009/01/12 04:29:11

forex ☆☆☆	いわゆる中国の光と影が見えた気がする。 中国人が官民一体となって臓器売買のようなものを行っていて、それに絡む日本人の姿が描き出されていて、とても楽しく読めた。 ただ、読んでいて、この本の作者が倫理的な側面からかどうかわからないが、このような臓器売買に対して批判的なスタンスをとっているように思われた。しかし、私はこのような仕組みのおかげで日本人の命などが救われるならば、それはそれで良いのではないかと常に思っている。			
	1-97	97P (180分)	53-97	2009/01/02 21:22:29

ri-si- ☆☆☆☆☆	倫理と言っている人には「自分や自分の子供が移植が必要になった時にも同じことを言えるか聞きたい」と思いました。さすがに金銭やコネは良くないと思いますが死刑囚の臓器を移植するのは効率がいいなと思いました。日本もドナーカードなんてものは死んだときに自分の臓器を使ってほしくない人だけ持ってればいいと思います。			
	1-220	220P (120分)	???	2008/12/18 06:38:08

Ian ☆☆☆	確かにありそうな話だった。			
	7-45	39P (20分)		2008/12/06 17:12:08

弟子 ☆☆☆	思いのほか予想内であった 倫理とか道徳とか精神とか、そんな高尚なことを口にできるようになるまでにどれほどの体験を知らずの内に回避できたかということに、あらためてありがたみを感じました。			
	7-52,230-235	52P (10分)	あとがき	2008/11/25 00:28:15

DNA ☆☆☆	パッと見た感じおもしろそうだったが、ふたを開けてみると意外と味気ないものだった。			
	1-178	178P (120分)		2008/11/22 00:44:22

yatta ☆☆☆☆☆	帯にある「死体を見たら金と思え！」というコピーにひかれて読み始めた１冊。ここにかかれていることが現実に、しかも隣国で行われていると考えると背筋が凍ります・・・			
	全部	239P (240分)	98-120	2008/10/28 00:11:28

ＴＯＰへ

転がる香港に苔は生えない

著者名	星野博美	発行年	2000年
出版社名	文春文庫	ページ数	620ページ
値段	990円	ISDN	4-16-771707-7
コメント	ローリング・ホンコン。むしろ、爆発ホンコン。 カッコつけてないのが、いい。飾り気がなくて、真っ正直なのが、いい。憧れの美少年への恋心も、イケ好かない友人への辛辣な視線も、そのまま潔くぶちまけられ、読み手はいつしか香港の「炒（ちやう）」のただなかに巻き込まれている。 たとえば電車のなかで見ず知らずの他人同士がおしゃべりしているのに、ふと聞き耳を立ててしまうかのように、623ページの、このぶあつい文庫本の、どこのページでもぱっと開いて、とりあえず身を任せてみてほしい。ルポなんていう、気取ったひとごと視線でなく、血肉の一部としてのホンコンと格闘中の彼女に出会えるから。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かける ☆☆☆	濫読らしい濫読をしました。 トイレ事情がすごいです。			
	濫読	120P (80分)		2009/02/20 11:56:46
takuto ☆☆	盛り上がりどころまで読んでいないだけかもしれませんが、５０ページであきました。			
	１－５０	50P (60分)		2009/02/19 10:40:37
joker ☆☆☆☆	分量は少し多め。しかし長さをそんなに感じなかったです。 言葉や語り口はとてもシンプルだが、話の単調さはそれほど感じず、こういった感触を持つ作品は秀作か否かというのとまた別の次元で素敵だと思います。 内容も面白く、まるで隣でお話を聞いてる感じです。 香港自分も好きです。そして題名もなかなか。			
	1-620	620P (300分)		2009/02/16 14:14:13
sweets ☆☆☆☆	長かったことがうれしかった。 楽しく読めた。 ルポかとおもったら全然違った。			
	all	620P (200分)		2009/01/27 15:12:18
☆ ☆☆	香港に行ったことがあったためこの本を読んでみたが、行った時に見えなかったことばかりで、日本とは明らかに違うものがあると感じた。			
	1-64ページ	64P (80分)		2009/01/26 23:30:49
上場亮 ☆☆☆☆	長すぎです。あきました			
	1-100	100P (120分)		2009/01/26 21:50:43
&DO ☆☆☆☆	ちょいちょい読んで結局全部読んだ。香港には行ったことないが言ったような気分になった			
	1-623	623P (230分)	420 -	2009/01/20 12:48:18

うみねこ ☆☆☆☆	香港で一人旅をするような擬似体験ができる本。香港で生活しているような気分になれる。 よく西洋と東洋で文化を二分する考え方を目にするが、同じ東洋でも日本と香港はここまで文化が違うのかと思い知らされた。			
	1-345	345P (300分)		2008/12/16 02:10:04

!? ☆☆☆	なんかいろいろと考えさせられた。			
	430-568	138P (120分)		2008/11/25 10:29:34

david wright ☆☆☆☆	香港の将来は明るいのか			
	1-320	320P (150分)		2008/11/16 21:01:22

弟子 ☆☆☆☆☆	彼らは「ニセモノ」という誇りを抱いている気がする 久々に懐かしいものを思い出させてもらった気分だ。本当にどうでもいいことだが、私にとって350mlのスプライトは1Dhだった。店で売ってる一番安い変な色のアイスバーは0.5Dhs、キット・カットのチョコバーは2Dhs、韓国産のハングルカップラーメンは3Dhsで日清の緑のたぬきは15Dhsだった。たとえば装の整った本であれば、Dhsという単位にはもちろん「＝　xxx円」という表記が付きまとうのだが、そんなこと当時の私には至極どうでもいいことだった。 自動販売機で飲み物を買うときはどうであろう。米国では1$であるし英国では1￡である。もちろん私にしてみれば1Dhでもある。日本であればもちろん￥120と表せる。しかしそれ以上を考えることは無駄である。日本より米国のほうが安いとか、英国は経済危機が起こるまでは日本の二倍近くあったんだなとか、そういうナンセンスなことを考える人にこの本はお勧めしない。 遠回りしている気がするが許してほしい。私がこの本を至極気に入った点は、きちんと物価水準の上下関係についての話をしながら、同時に単位としての「元」に対して可能な限り日本円に直していないところであると思う。さすがに日本と比較するときや単位が大きすぎる場合は日本円に直しているが、そうでないときには日本円いくらとは書かれていない。なぜならそこに生活する人にとって日本円いくらかなんて全くもって関係ないからだ。だからこそこの本には、主観的な生活観が面白いくらいに伝わってくる。 こういったことはおそらくテレビや映画では表現できまい。活字だからこそ伝わってくる臨場感とか、そういったのめりこむ感じがある。 立ち読みポイント？　たかが600ページくらい読んだらどうですか？　この本ははじめから読まないとものすごく損しますよ。きっと。			
	all	620P (200分)	はじめから	2008/11/10 11:08:19

ミニブタぽん ☆☆☆	20ページくらいまで主人公は男だと思い込んでいた・・・ 素な感じだった。			
	1－29	29P (60分)		2008/10/16 00:32:12

ＴＯＰへ

ASIAN JAPANESE 1

著者名	小林紀晴	発行年	2004年
出版社名	新潮文庫	ページ数	368ページ
値段	590円	ISDN	978-4-10-143921-1
コメント	甘え、と言えるのかもしれないな。自分探しと称して、いい若いもんが、アジアを何ヶ月も何年も、あてどなく放浪する。ニッポンと比べて物価がめちゃめちゃ安いから、できることだよね。 そんな若いもんのひとりが、バンコクで、バリで、カトマンズで、彼らのポートレートを撮り、それぞれの胸の内を聞き出した。さらに帰国後の彼らにコンタクトして、その後の人生をまた撮った。引き続き自分探し中のひと、ちょびっと夢に近づいたひと。 甘えとも、そうでないとも言い切れない、いまだ旅の途上の彼らの言葉に、彼らのまなざしに、やはり自分探し中のこの場の読者さんたちが、ふっと感応するものがあれば幸い。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
反社会性人格者 ☆☆	確かにこの本に出てくる自分探し者は必要に迫られて一人旅をしていると思うし、逆に、社会に出る前にしっかりとしたビジョンを作って準備をしておけば、自分探しは必要ないのではないかとも思う。			
	19-62、240-269	64P (60分)		2009/02/19 20:43:50
ketume ☆☆☆	「後悔する側の人間にはなりたくなかったんだ。」何が正解かわからないけど、自分もそんな生き方がしたいと思った。			
	78-118	41P (30分)	84	2009/02/19 13:06:29
継承者 ☆☆☆	自分さがしの旅。 一人旅ってのをしたことはなくて、さして興味もなかったんだけど、もし機会があったら行ってみてもいいかなとおもったり。			
	1-97	97P (60分)		2009/02/18 14:32:50
BLOWIN' ☆☆☆☆	こういう人に憧れます。いい意味で自分に素直なんですよね。 僕も行ってきましょうか。自分探しへ。もちろん日本国内の範囲でですけど。			
	1-368	368P (200分)		2009/02/16 22:54:59
joker ☆☆☆	「自分探し」みたいなのは好きではないが、自分の友達も大学休学して世界一周とかしてるやつが結構いるので（特に〇稲田の学生とか多し。笑）その点ちょっと共感。 ただ、作品としては経験すれば誰でも書けるレベルでは、と失礼ながらに思ったり。「同じ経験」というものはないけれど、こういうユース世代は結構多い気がします。（自分がそういう環境にいるからかもしれませんが。） そこからどうつなげるか、が大事です。きっと。 モチベーションが生まれたら、適格なアクションが大事。そのために私たちはここで学んでいるんでしょう？			
	1-368	368P (130分)		2009/02/16 14:07:16
chor ☆☆☆☆	旅がしたくなった			
	全部	368P (150分)		2009/02/06 21:45:08

sweets ☆☆	この手の本はよくあるが、そこまで説教臭くないのがよかった。 写真は微妙			
	all	368P (150分)		2009/01/27 15:04:38

Ian ☆☆☆☆☆	アジアを旅する人たちのその力強さ、そしてはかなさに人生を感じました。			
	3-260　270-278	266P (120分)		2008/11/29 21:15:37

自由教育 ☆☆☆☆	旅に出てアジア諸国を放浪する人々の強さを感じた。何かをきっかけに旅にでようと思っても、実際に行動に移せない人々のほうが多いのではないかと思う。			
	19-145	127P (60分)		2008/11/21 10:40:40

besevener ☆☆☆	おもしろかった			
	164-239	75P (30分)		2008/11/06 15:42:59

弟子 ☆☆☆☆	やっぱり、東京という場所は非日常なのだ。 携帯電話というものはとても便利です。思い立ったときに連絡を取ることができるのでコミュニケーションに欠かせません。しかしそれは同時に不便でもあります。思い立ってもいないときに連絡を取ることが可能だからです。私が偏屈だからでしょうか。今携帯電話の中に入っているアドレスのうち、生涯使わないであろうものがいくつあるか考えてみたくなる時があります。アドレスを交換しているときも、あと何回でこのアドレスを使わなくなるだろうと考えてしまうのです。 引越しの多い家族に生まれて早20年。私にとって友人の概念は「もう少ししたら会えなくなる人間」でした。冷徹なようですが、死以外の別れを悲しいと思ったことはあまりありませんし「あいつ今どうしているのかな」とか考えることもありません。けれども、おそらくもう二度と会わないような人もたくさん「友人」でした。 この本は大体に分けて二部構成である。しかし、前者と後者とではあまりに決定的に違いすぎている。前者は友人であり、後者は他人であると私は思う。そう考える。			
	all	368P (90分)	まんなか	2008/11/06 15:25:18

鍋工房 ☆☆☆☆	儚くて危うい人たちがいっぱい出てくる本。 でも、僕らの多くも似たような顔をしてるんだろうな。 旅に出るのも一つの選択、出ないのも然り。 旅に出て見失うものもあれば、旅に出ないで見つかるものもある。 もやもやしたなら、行ってみればいい。それだけのことなんだろう。			
	全部	375P (400分)	174-189 , 208-238	2008/10/25 07:33:26

ＴＯＰへ

ルポ 貧困大国アメリカ

著者名	堤　未果	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	200ページ
値段	700円	ISDN	978-4-00-43112-6
コメント	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。 ぱんぱんぱんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道驀進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
世界のニシテツ ☆☆☆	時間がなくあまり読めなかった。深刻な格差社会が浮かび上がってくる。日本はこうはならないでほしい。			
	1-88	88P (60分)	前半	2009/02/20 12:57:04
☆ ☆☆☆☆	本すべてを読んだわけではないので部分的な感想となってしまいますが、サブプライムローンの問題について書いてあり、現在の経済危機への流れを知ることができてよかった。			
	1-31ページ	31P (25分)		2009/02/19 23:24:00
反社会性人格者 ☆☆☆☆☆	アメリカの医療制度の崩壊は日本の比ではない。 盲腸で一日入院しただけで１００万を超える請求が来る。 誰がどう見ても普通じゃないこの状況が８年ぶりの民主党政権によって変わるのだろうか。			
	63-98	35P (10分)	３章（医療制度）	2009/02/19 17:07:46
ketume ☆☆☆☆	アメリカの格差社会に驚いた。特に医療費の負担額については目を覆うものがあった。			
	12-33 64-97 100-143	100P (45分)	64-97	2009/02/19 12:11:28
ベル ☆☆☆☆☆	知らないことばっかりだった。 読み終えると、社会に対して多少懐疑的になります。			
	1-200	200P (300分)		2009/02/17 11:39:42
kazuki ☆☆☆☆	この手の話って興味がなくても引き込まれるのはなんでなんですかね。			
	全部	200P (90分)		2009/02/13 01:20:41
鍋工房 ☆☆☆	暴走中の資本主義に民主主義が飲み込まれています。 社会の変革はボトムアップかトップダウンか。オバマは高すぎる期待に応えることが出来るのか。 飲み込まれる民主主義の明日はどっちだ！			
	全部	200P (160分)		2009/02/04 11:12:20

chicken-run ☆☆☆☆	いわゆる「アメリカン・ドリーム」は、最早かの国には存在しない。そう思わせるのに十分な本でした。 日本のそれとは、比べるのも馬鹿らしい程の絶望的な格差の社会がそこにはあった。この著者は、個人的にブッシュ大統領に恨みでもあるんじゃないかと思うほど、彼の政策を批判しているが、全部本当なのだから仕方がない。 日本に生まれて本当によかったです。			
	全部	200P (90分)		2009/01/13 10:59:17

弟子 ☆☆☆☆	上から見れば下は尽きないし、下から見れば上は尽きない 現実の人間っていうのは、経済学で仮定されているほど頭は良くなく、素直でもなく、不満不平を言い連ね、かといって変なことにまで拘り、時に不自由と不平等を美徳としながらも、自由と平等を叫ばざるを得ない、不思議な不思議な生き物です。			
	all	200P (60分)	146-	2008/12/02 12:26:04

マシュ ☆☆☆☆	今までそれほど知らなかったアメリカの一面を知れたと思う。著者の意見はちょっと偏りすぎだとも思ったが医療費や戦争ビジネスの問題は本当に深刻で、日本もそうならない保障はないと思った。			
	1-200	200P (150分)		2008/11/11 23:09:02

david wright ☆☆☆☆	アメリカは福祉がくそだけどＭＬＢは面白い			
	1-200	200P (180分)		2008/10/24 07:49:39

joker ☆☆☆	こんなに問題点があるんだ！という、著者のスタンスが明確。 じゃぁ、それをどうするんだ！というのが、おそらく一般読者。 じゃぁ、こうしていけばこうなる！というのが、きっと社工のスタンス。 言わずもがなだと思いますが、一見問題に見えることにも、もちろん背景があります。 そこに気づいていれば、興味深い面白さに。 確かに、それに気づかない人が多いから、ただのエンタメでベストセラーになっている気も。			
	1-200	200P (90分)		2008/10/23 12:40:32

宅急便 ☆☆☆	知らないアメリカのことが書いてあって面白かった。 ただ、題名から想像するのと違い、内容が戦争の話に偏っていたような気もする。 また、政策の悪いところだけを抽出しすぎている感もぬぐいきれない。 例えば予算を削った結果…という話がいくつかあったように思うが、悪影響について書いてあるのは当然としても、メリットに関する記述がないので、「ここに書いてある（悪い）ことは事実だとしても、言うべきことは本当にこれで全部なの？」と思ってしまう。			
	1-200	200P (150分)		2008/10/18 01:31:40

柴 ☆☆☆☆☆	アメリカの医療費の高さ、保険会社のひどさにびっくり。医療費が高すぎて出産が日帰りなんて、信じられない…。こんなにも借金生活をしている人がいるのかと驚かされます。是非みんなにも知って欲しい。			
	1-33,64-168	138P (90分)	64-95	2008/10/16 22:16:07

ＴＯＰへ